



7月24日(金) 第14回ナイトinビアパーティー



8月2日(日) 第5回ナイトハイ高原ヒルクライム



8月7日(金) 第48回納涼花火大会

# 夏の思い出 ~Summer Memories~

## 7月22〜24日

### 中国関係者がふるさと納税の取り組み学ぶ



ふるさと納税によるまちづくりを学ぼうと、在日本中国大使館の職員や中国のマスコミ関係者が視察に訪れました。NPO法人日中環境協会(島村宜伸会長)の主催で行われ、「都市と農村の交流in上士幌」と題して約30人が来町されました。日本と同様、中国では都市部と地方の格差が拡大しており、格差は正のため、本視察によってふるさと納税の仕組みを理解し、導入を模索するのが狙いです。視察では、竹中町長がふるさと納税についての講演を行ったほか、認定こども園などの町内施設見学、熱気球の体験搭乗、卓球を通じたピンポン交流が行われました。

## 8月1日

### 第38回北海道子ども本のついで



「第38回北海道子ども本のついで」上士幌大会が、認定こども園や上士幌中学校などで開かれました。元旭山動物園の飼育員で絵本作家のあべ弘士さんによる

## 7月21日

### 尊重し合う関係を〜上高アートDVD講座〜



上士幌高校で「生と性に関する講座」が開かれました。帯広人権擁護委員協議会から人権擁護委員の方を講師に招き、アートDVD(交際相手から受けるさまざまな暴力)の概要や問題点について学びました。生徒たちは、啓発用DVDの視聴や意見交換などを通じて、相手を尊重する付き合い方を考えました。

## 7月23日

### 「音更川の流送」の歴史を後世に



浜名啓次郎さんら有志が、明治から昭和初期にかけて行われた勢多陸揚げ土場(上流から流した材木を陸揚げする場所)の歴史を伝える看板を中央橋付近に設置しました。7月23日に現地で除幕式が行われ、地域住民ら27名が出席しました。浜名さんは「大勢の方にお世話になって今日を迎えられてうれしい」とコメントし、除幕された看板の前に、浜名さんから音更川流送の歴史が語られました。

## 8月5〜6日

### 木に想いを込めて〜アート刻書展〜



大野溪石さんと豊侯さん夫妻による「アート刻書展inかみしほろ」が、生涯学習センターで開かれました。アート刻書とは木の板に文字を刻んで彩色したもので、会場では約40点の作品が展示されました。期間中はアート刻書の体験会も実施され、参加者は大野さん夫妻から指導を受けながら、色とりどりの作品を創っていました。

## 8月11日

### ぬかびら道路功労者表彰



ぬかびら源泉郷行政区(二瓶勝善区長)が、公益社団法人日本道路協会による今年度の道路功労者表彰に選ばれ、役場で伝達式が行われました。本表彰は、道路整備や美化・保全に尽力した団体や個人に贈られるもので、同区による長年の道路清掃や美化活動が認められ受賞となりました。



## ナイトハイ高原ヒルクライム

8月2日(日)、第5回ナイトハイ高原ヒルクライムが行われました。参加者は、ナイトハイ高原牧場のふもとから頂上までの約7km、標高差約400mのコースを自転車で一気に駆け上がりました。

# 7・8月の まちのわだい

「まちのわだい」のコーナーでは、みなさんからの楽しい話題や情報をお待ちしています。企画財政課情報交流担当 ☎2-4290 または E-Mail ☞ kikakuzaiseika@town.kamishihoro.hokkaido.jp まで、お気軽にご連絡ください。

## 「全力プレーでがんばります!」 小・中学生が、馬場教育長に全道大会出場決定を報告



卓球・陸上



サッカー

▶札幌トレン交流大会(U・11)に出場する上士幌小5年・黒沼大翔さん

▶写真左から、第45回北海道中学校卓球大会に出場する上士幌中2年・大野隆貴さん(男子シングルス、および第46回北海道中学校陸上競技大会に出場する同3年・塚本英麗奈さん(女子800m)、同2年・高橋志乃さん(女子200m)、同2年・渡邊夏鈴さん(女子走幅跳)

▶左から、第24回北整全道少年柔道大会(団体戦)に出場する北門小6年・兼子澤待さん、上士幌小5年・森下紗那さん

# 町民(文)芸

## 川柳

永年の御無沙汰詫びて墓参る  
秋祭り出店でお会い古き友  
掃除機を鼻唄まじりで引き回し  
おみこしと出店でひぎわう秋祭り  
靴墨で光る革靴出番なし  
毎日の散歩に健康ついてくる  
あつい夏牛もバテてるエサ食べず  
夏休み終えた宿題誤字脱字  
コーヒーでゆっくり過ごす秋の夜  
進化するスマホに老眼悪化する  
戦争は人を殺して殺される  
弾薬を背負いリスクはない童話

## 短歌

馬鈴薯の白き花咲く十勝野を疾走しゆくバイクの一群  
秋蒔きの小麦の熟れる畑見つつ初孫生れし時を思ひつ  
朝に夕に正信偈読経なり馴れてきて信心深き姑の読経今に思いつ  
夫逝きて曾孫四人生まれる乳のみごの寫眞飾りて心やすらぐ  
いと細くなりたるものよこの朝の襟に附着の白髪とり捨つ  
い寝ながら足痛む妻が体操をしてるしあさの蒲団の上にて

白桜 齊丹 奎高 米薺 鈴小 米坂  
石藤 後大 木森 根木 松森 田  
花敦 昭喜 誠博 義真 いさ子  
馨絵 子次 子也 樹守 豊美 弓子

本高 石  
間木 川  
栗慶 裕  
風子 子



◎ 上士幌の夏の風物詩、第42回北海道バルーンフェスティバル取材しました。

◎ 天候不良で競技が中止になる場面もありましたが、予定していたステージイベントやバルーングローなどは無事行われ、多くのお客さまを楽しませていました。また、3日目朝には熱気球の一斉離陸が行われ、観

客から歓声が上がってました。…S  
◎ 日に日に涼しさを増し、短かった夏も終わりを告げようとしています。春に広報の担当になって早5か月。取材を通してさまざま人、活動、社会について、新しく気付くことがたくさんありました。まだまだ自分の知らない上士幌があるものです。これから秋・冬に向けてもっと上士幌を知り、発信していきますね。…K

がみしほろ 10月号は9月25日(金) 発行予定

平成27年7月末現在の人口

男性	2,374人(-1)
女性	2,535人(-3)
人口	4,909人(-4) (外国人45人含む)
世帯数	2,399世帯(+6)

## 寄付

▶7月22日、4区の小椋茂明さんは、故・小椋勝子さんが生前お世話になったお礼として、屋外用電波式掛時計を町に寄付されました。掛時計は交通公園内の交流施設に設置しています。

平成27年度 ふるさと納税寄付金

7月分	4,762件 103,662,710円
累計	21,599件 434,454,032円

※全国より本町に篤志寄付の応援をしていただき心より感謝を申し上げます。

## 上士幌町民憲章

- 心もからだもきたえ、すこやかな人になりましょう。
- おたがいに立場を理解しあい、楽しい家庭をつくりましょう。
- きまりを正しく守り、明るい社会をつくりましょう。
- 自然を愛し、美しく住みよいまちにそだてましょう。
- 文化をたかめ、豊かな郷土を築きましょう。

## 地域を変えてく新しい力 地域おこし協力隊活動報告

TITLE: また訪れたいと思われるマチへ 記: ふるさと納税推進員 大場 絵理香



暑さも少し和らぎ、涼しくなってきましたね。ふるさと納税推進員としての活動も2年目になり、上士幌町を応援して下さる寄付者の方々と交流する機会も増えています。

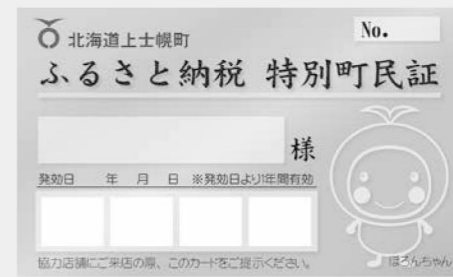
今年度より、「ワンストップ特例制度」(確定申告をする必要のない給与所得者等が特定の条件を満たす場合に、確定申告をすることなしに、ふるさと納税による寄付金控除が受けられる制度)がはじまり、ふるさと納税が従来より簡単に行えるようになりました。

今年はバルーンフェスティバルの会場でも相談のブースを設けて、お申し込みの受付などを行いました。移住体験に来られたご家族やご夫婦ともお話をさせていただき、上士幌町での生活を移住者の目線でお伝えすることができました。

さらに今年度は、来町された寄付者を対象に「ふるさと納税特別町民証」を発行し、交流人口のさらなる増加を目指しています。この取り組みを通じて、はじめて上士幌町を知り実際に足を運んでいただいた方に対し、いかにマチの魅力を伝えることができるかが重要になると考えています。「訪れてみたい」から「また絶対に訪れたい!」と感じてもらえるような場所となるように、イベントも含め、マチの雰囲気を積極的に発信していきたいと思えます。



▲バルーンフェス会場内のふるさと納税特設相談ブース



▲来町された寄付者に発行している「ふるさと納税特別町民証」

## 上士幌高校新聞局 通信 月刊 上高



▲係留活動をする上士幌高校熱気球部

8月7日(金)から9日(日)まで航空公園で第42回北海道バルーンフェスティバルが行われました。今年は30チームが参加し、上士幌の空を悠々と気球が飛んでいました。

今回優勝したのは奈良女子大学熱気球部で、バルーンフェス史上初めてとなる女性チームが総合優勝を勝ち取り、新たな歴史が刻まれた大会となりました。

1日目は天候不良で競技を行うことができませんでしたが、その日の夕方に山村開発センターでウェルカムパーティーが開かれ、各チームの人と交流することができ、大変な盛り上がりを見せていました。2日目も午前中は天候不良で競技が中止となってしまいましたが、午後からは競技が開始されました。3日目は朝から競技が行われ、上士幌の上空を無数の気球が飛んでいました。

大会競技委員長の龍野幸敏さんは、「できるだけ全道、全国の人にここを知ってもらいたい。風を楽しめる、安全を大事にすることを意識して上士幌の風を楽しんでほしい」と笑顔で話してくれました。

## 8月7日(金)〜9日(日) 第42回北海道バルーンフェスティバル

文責 塚本 好輝